

## 昭和29年の台風に見われた導入黄麻 及び洋麻の耐風性について

上 原 勉・鎌 田 友 安  
九州農業試験場

UEHARA, T. & KAMADA, T. On the Wind-proof of Jute and Kenaf  
introduced from Formosa, confirmed by Typhoons in 1954

緒 言 先に筆者は台湾黄麻の優秀性を一部報告したが、元来が低緯度作物である為に我が国での栽培は暖地に多く、従つて台風の被害を屢々蒙るので耐風性の強い品種が必然的に要求されるのであるが、耐風性についての調査は未だ無く栽培に当つて或程度の不安があつた。然し幸に昭和29年これ等品種の栽培試験中、8月中旬より9月下旬にかけて4回の台風に見

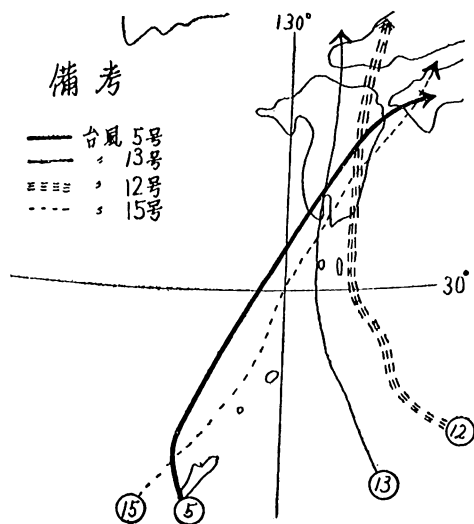
舞われ、これ等品種の耐風性について若干知り得たので、ここにその概略を報告し今後の試験研究の資料に供する次第である。

台風状況 昭和29年種子島を襲つた台風経路及び台風状況は第1図及び第1表の通りであるが、各台風とも夫々特徴を有し、5号は10m/s以上の強風が15日18時より97時間にわたり吹き続き、13号の眼は

第1表 台 風 状 況

台風名	月 日 時		最低 気圧	最 大		瞬間最大		風 向	雨 (mm)	
	開 始	終 了		風速	風向	風速	風向		総降水量	1時間 最大
5号	8月15日18時00分	19日19時20分	m. b 975.8	m/s 32.1	WSW	36.4	SW	E—S—W	134.5	23.1
13号	9月7日8時10分	7日20時00分	961.8	—	—	34.7	NE	NE—N—SW	82.5	40.8
12号	9月12日0時50分	14日15時30分	959.3	28.2	W	31.2	W	NE—S—W	175.5	18.1
15号	9月25日12時40分	26日10時10分	971.7	39.1	WSW	—	—	S—W—N	78.8	30.7

第1図 台風経路



種子島の上空を通過した。また12号は膨大な台風眼を持ち、台風の後期には雨を伴わず潮風害を伴つた。15号は前3回の台風にみられなかつた強い風に強雨が伴つた。

以上の如く1年間に4回も台風が襲来する事は種子島においても極めて稀な事である。

調査圃場及び品種 調査圃場は北東に松林があり北東の風をさえぎるのみで、台風通過時の最も風力大なる南東の風と、通過後の吹返しの南西風に猛烈に吹きまわれ、その上複雑な地形によつて生ずる局所的な強い風の流れによつて、作物は一定の方向に倒れることなく各種方向に倒れた。

調査の対象とした品種は1951年、52年に台湾より導入した *Corchorus capsularis* に属する白胭脂、青皮3号、永靖秋仔、永靖白露、永靖青皮、台中1号、台中特1号及び *C. olitorius* に属するチンスロブリーの黄麻8品種と、洋麻の赤茎系ナジアド紅と、青

葉系のマドラス青の合計10品種で、昭和29年4月20日から5月19日の間に10日隔きに4回に亘り播き、栽植密度は2.0尺×4寸、1区2坪3区制の乱塊法に配置した。肥料は反当堆肥300貫、硫酸4貫、過石3貫を基肥とし、硫酸6貫を追肥として2回に分施した。

調査成績 各品種の被害状況は第2表の通りで、*C. capsularis* に属する黄麻は全部台風12号で100%落葉し、頂部より黒変し遂に枯死するに到つた。洋麻は2品種共黄麻より落葉程度は軽かつたが、ナジマード紅のみは黄麻と同様遂に枯死するに到つた。しかしながらマドラス青のみは、10月上旬より草勢を回復し再び成長し始めて10月下旬には開花盛期となり、耐風性の極めて強いことが判明したので、マドラス青について播種期別の生育と被害状況並びに採織量、採種量について10月23日調査を行ったが、その結果は第3表、4表の通りである。

第2表 台風による落葉程度及び枯死率の品種間差異

品 種 名	種類	落 葉 程 度				枯死率 %
		5号	13号	12号	15号	
マドラス青	洋麻	20	50	60	80	7
ナジマード紅	洋麻	20	50	60	80	100
白 烟	黄麻	30	80	100	—	100
青皮三号	黄麻	30	80	100	—	100
永靖青皮	黄麻	30	80	100	—	100
永靖秋仔	黄麻	35	80~85	100	—	100
永靖白露	黄麻	35	80~85	100	—	100
台中一号	黄麻	40	80~90	100	—	100
台中特一号	黄麻	40	80~90	100	—	100
チンスロブリー	黄麻	25	60	80	90	90

第3表 マドラス青の播種期別の生育並びに被害状況(2坪)

播種日	草丈 cm	葉径 cm	完全株 %	頂部 折損株 %	枯死率 %	残存率 %
4月20日	263.2	2.2	54.2	41.3	4.5	95.5
〃 30日	275.1	2.3	45.9	48.9	5.2	94.8
5月9日	244.9	2.3	55.4	37.8	6.8	93.2
〃 19日	240.5	2.3	76.1	12.5	11.4	88.6

頂部の折損は草丈の高い早播に多く、また枯死株は早播区ほど少い様な傾向を示し、早播き程風に対する抵抗力は強いものと思われた。

第4表 マドラス青の播種時期別の採織量並びに採種量(坪当)

播種日	開花日	採織量 kg	完全蒴数	採種量 gm
4月20日	10月8日~10日	5.700	620.0	182.0
〃 30日	〃	6.800	748.0	219.6
5月9日	〃	4.865	799.5	251.0
〃 19日	〃	4.615	826.1	259.0

採織量は草丈の伸長している早播区がよく特に4月30日播区が最も多かつた。これを台北農業試験所における成績(1ha当1,793,321kg)に比べると、台風遭遇し被害を蒙つたにもかかわらず何ら遜色はない。また開花日は各播種期共同一時期であるにもかかわらず遅播区ほど蒴数が多く、従つて採種量は多かつた。

以上の結果から採織を目的とする場合は、頂頭部が折損していても草丈の伸長していたものが収量が多く、採種は5月中旬播種した遅播の方が有利な様に考えられた。

結 言 以上導入黄麻及び洋麻の中、マドラス青の耐風性は極めて強く、本年の如き強度の台風遭遇し相当の被害を蒙つたにもかかわらず、なお採織量多く、採種も可能であり、極めて有望な品種と思われる。本調査の結果から考えるに、黄麻栽培に当つては台風との関係を第一に考慮すべきで、防風効果のある圃場を選び局地的に栽培するのが好ましいが、防風施設のない圃場、或いは台風襲来頻度の高い地帯にあつては、洋麻の繊維が高収取上 Jute と同様に取扱われ Jute の代用品として用いられているので、耐風性の弱い黄麻よりは寧ろマドラス青の如き耐風性の強い洋麻品種を選ぶべきではなからうかと思われる。

本調査は偶々台風の機会を得ての調査であり、洋麻の供試品種は2品種のみであつたので、他に或はマドラス青と同様なものがあるかどうかは判らないが、かかる耐風性品種の選出に努力する事は今後の黄麻、洋麻栽培上極めて重要な事であると思われる。